



住宅地で設置を呼びかける消防本部職員

既存の住宅でも、住宅用火災警報器の設置が6月から義務付けられたことに伴い、5月21日、高遊原南消防本部で「住宅用火災警報器設置推進広報マラソン」が行われ、非番で体力に自信のある職員13人が、町内一円で設置を呼びかけました。

コースは消防本部をスタート・ゴールとし、各校区を回る約30km。揃いのTシャツに「火の用心」と書かれたのはちまき姿で、2列縦隊になり住宅地を走りまわった。隊列の前後には、のぼりを立てた自転車4台が並走。住宅地に入るとハンドマイクで周知を図りました。

同消防本部予防課では、「住宅火災による犠牲者を出さないため、必ず設置をお願いします」と話しています。

設置はお済みですか？

高遊原南消防本部職員がマラソンで住宅用火災警報器設置の呼びかけ

さらなる安全・安心に向けて

益城交番が国道沿いに移転

御船警察署益城交番が、国道443号線沿い(寺迫)に移転・新築し、5月9日、住永町長や村上庸治御船警察署長など関係者約40人出席のもと落成式が行われました。

益城交番は昭和49年10月、木山駐在所として蛭子町に建てられ36年が経過し、老朽化と同時に手狭となっていました。新たな庁舎は、鉄筋一部2階建てで約130㎡、相談室や多目的トイレを備え、敷地も約400㎡で、従来の約2倍の広さを確保しています。

落成式の中で、同交番の大仁田英俊所長は「全力を尽くし、安全・安心な地域づくりにまい進します」と、力強く決意表明を行いました。



寺迫の国道沿いに移転した新しい益城交番



自転車の正しい乗り方を学習する子どもたち

交通ルール守ります

広安西小で交通安全教室

今年も5月に、各小学校で交通安全教室が開かれ、子どもたちが正しい交通ルールを学習しました。

5月16日、広安西小学校(徳島道雄校長、755人)で開かれた交通安全教室では、校庭に信号機のある交差点を用意し、御船警察署の署員や御船地区交通安全協会の会員、交通指導員が、子どもたちに自転車の正しい乗り方や横断歩道の正しい渡り方を細かく指導していました。

熊本市に近く交通量が多い校区であるため、徳島校長は「学校の基本的生活習慣『4つのあ』の中の、命に関わる『あんぜん』を最優先に、今後も指導を続けたい」と話していました。